

物流効率化の取り組みについて

東北運輸局岩手運輸支局
令和7年3月

これまでの経緯

令和5年度実施予定の「米」の輸送を対象とした実証事業について、令和6年度実施へと延期。今年度、実証事業に着手したところ、対象集団へのヒアリングにより現状では問題が無いことを確認したため、実証事業を中止。

物流効率化の取組について、全農物流株式会社に対しヒアリングを行った。

取り組み内容

JA全農主導による取り組み

○全農統一フレコン※

⇒30年程前から県独自規格のフレコンを使用していたが、規格を全国统一することで、製造・回収の効率が向上した。また、一括管理が可能となり、物流コストの低減や、安定取引に繋がっている。導入が始まったのはここ3～4年のこと。

○全農パレチゼーションシステム

⇒平成24年頃よりパレットの導入が進められてきたが、パレットの管理問題等により出庫時・納品時の手作業による積み替え作業が依然として発生していた。

令和元年頃より上記システムが導入され、同一パレットによる保管・輸送・納品の取組が進んだことで、手荷役削減・荷役時間削減等に繋がった。

【1回の出荷作業時間75%減(2時間→0.5時間)となった事例もあり】

※フレコン:紙袋が1袋30kgに対し、フレコンは1袋で1,080kgの大容量のため出荷効率の向上、荷役の機械化などのメリットが見込める。

導入に際し、全農物流は「レンタルパレット(UPR)の用意」を担い、「各農協への説明」、「納品先への説明」に関してもJA全農及び各県本部の協力を得て進めている。

現在のところ、取り組みの途中であり、納品先の都合等でこれらの仕組みを導入できていないところもあるが、全農グループとしては100%の導入を目指している。

「全農統一フレコン」と「全農パレチゼーションシステム」を核とした米の物流改善のめざす姿(イメージ図)

①全農統一フレコン

【ねらい】

- 手荷役のないフレコン輸送拡大による輸送力確保
- フレコン規格の全国統一による回収効率の向上
- およびコストダウンの実現
- リターンシステム確立による環境負荷低減
- およびSDGsへの寄与
- 農産物検査規程における推奨規格フレコンの拡大・収れんへの寄与

【目標】

- 全農統一フレコン導入率 **100%**(令和12年度まで)
- フレコン取扱比率 **80%**(令和4年度まで)



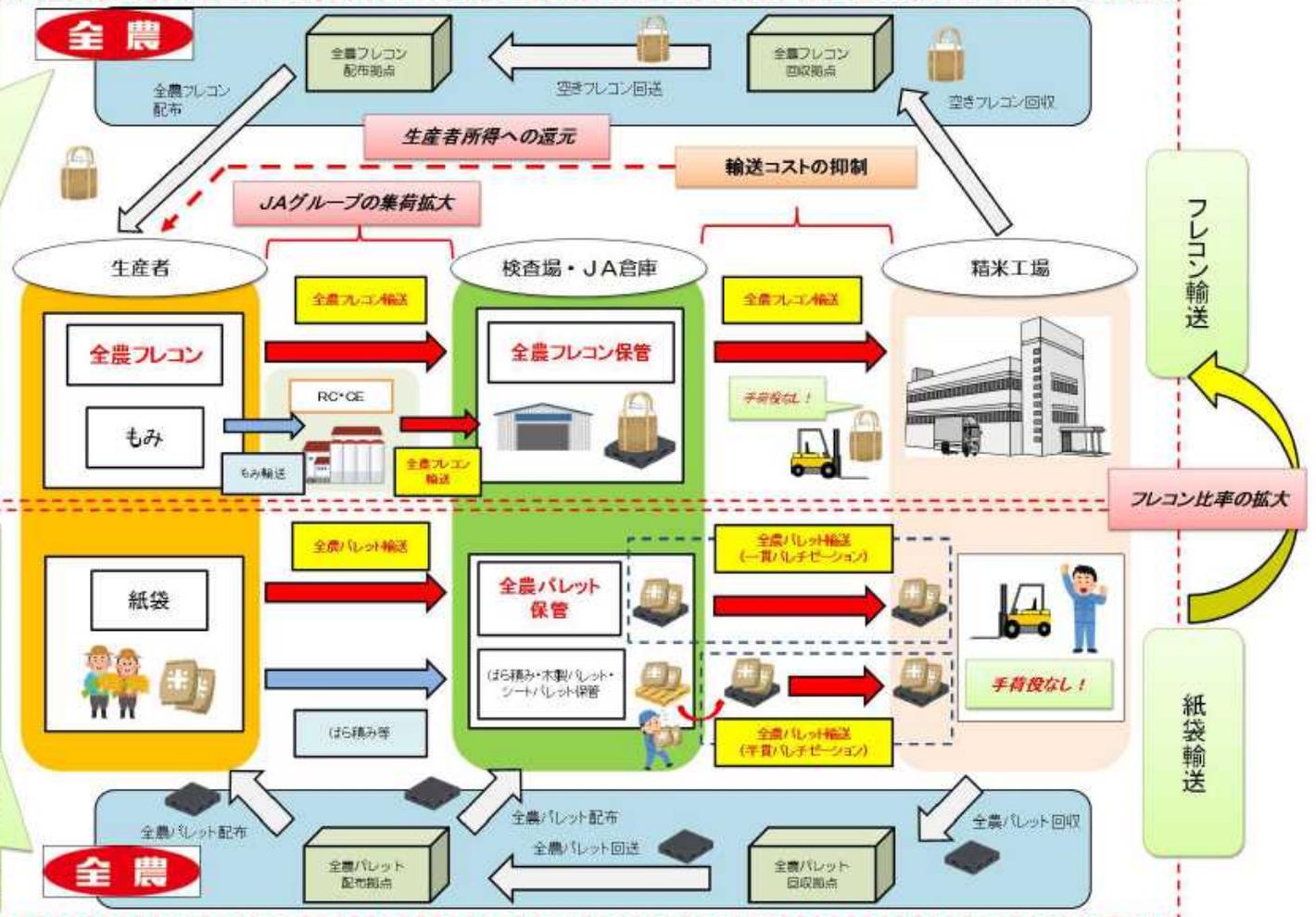
②全農パレチゼーションシステム

【ねらい】

- 手荷役のない紙袋パレット輸送拡大による輸送力の確保
- 全農パレットの全国的運用による回収・再配布コストダウンの実現

【目標】

- 紙袋輸送におけるパレチゼーション比率 **80%**(令和6年度まで)



コスト抑制による生産者所得の確保および安定的な輸送力の確保を目指します!

物流改善による輸送合理化

米穀の輸送力を確保するため、全農統一フレキシブルコンテナの拡大、紙袋輸送のパレチゼーション化を進めています。令和5年産では統一フレキシブルコンテナ40万枚（令和4年産25万枚）を導入し、パレット輸送は30県以上に拡大しています。また、物流の「2024年問題」に対応すべく、米専用列車の定期運行や異業種会社との共同輸送を実施しております。今後はフレキシブルコンテナの全国統一化と紙袋の8割のパレット輸送を目指し、米穀輸送の安定的かつ省力化によりコスト抑制を通じて持続可能な稲作経営に貢献していきます。



○物流改善の取り組み（イメージ）



ヒアリング対象

発 荷 主: 全国農業協同組合連合会 岩手県本部
運送事業者: 日本通運株式会社、岩手三八五流通株式会社

ヒアリング内容

【現状の課題】

- 年々生産量が減少傾向にあり、トラック1台当たりの積載率確保が難しくなっている。
また、従来から個建運賃が採用されており、安定した取引が難しくなっている。
- 使用しているパレットは木製の雑パレットが多く、破損・荷崩れのおそれ、管理されていないという問題がある。

【改善に向けた取組】

○集配拠点の集約化

⇒ここ5～6年で、県内各地にある集配拠点の集約化を進め、積載率向上を図っている。
また令和6年から、特に1集荷場で荷量がまとまらない農閑期(1～4月)対策として、既存拠点を活用した荷物の集約を行い、積載効率向上・台数削減を図っている。

○車建運賃への切替え

⇒ここ1～2年で順次切替えを行い、安定取引に繋げている。

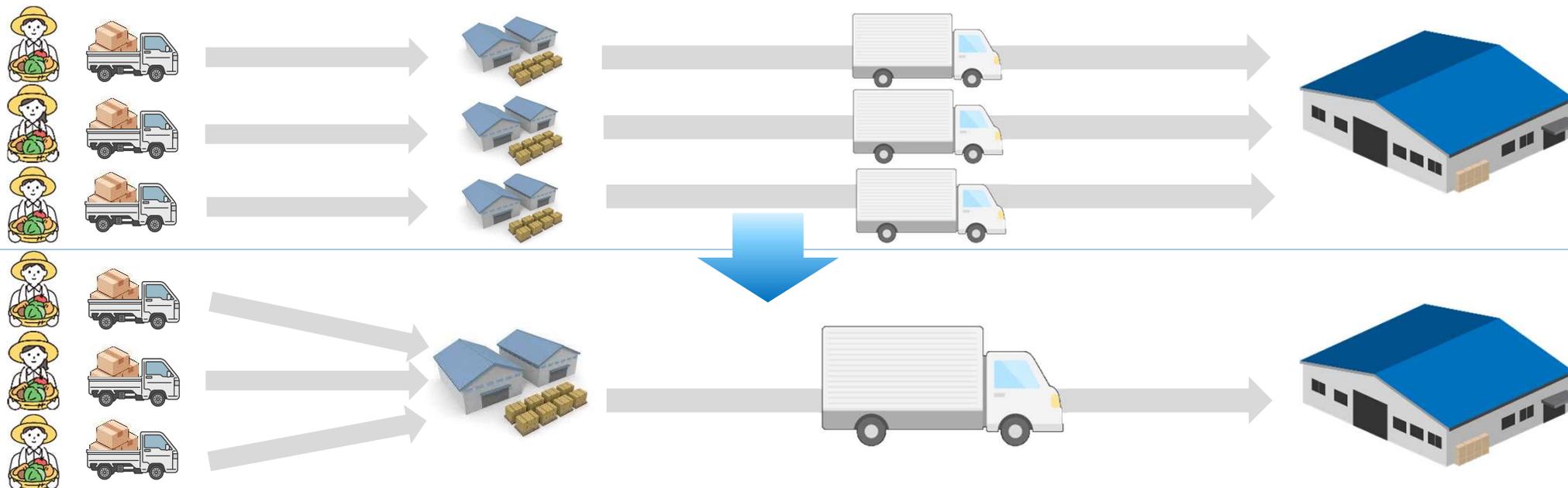
○レンタルパレット(JPR)への移行(段ボール箱のサイズの統一)

⇒レンタルパレットを導入したことで、以下3点の改善を図ることができた。

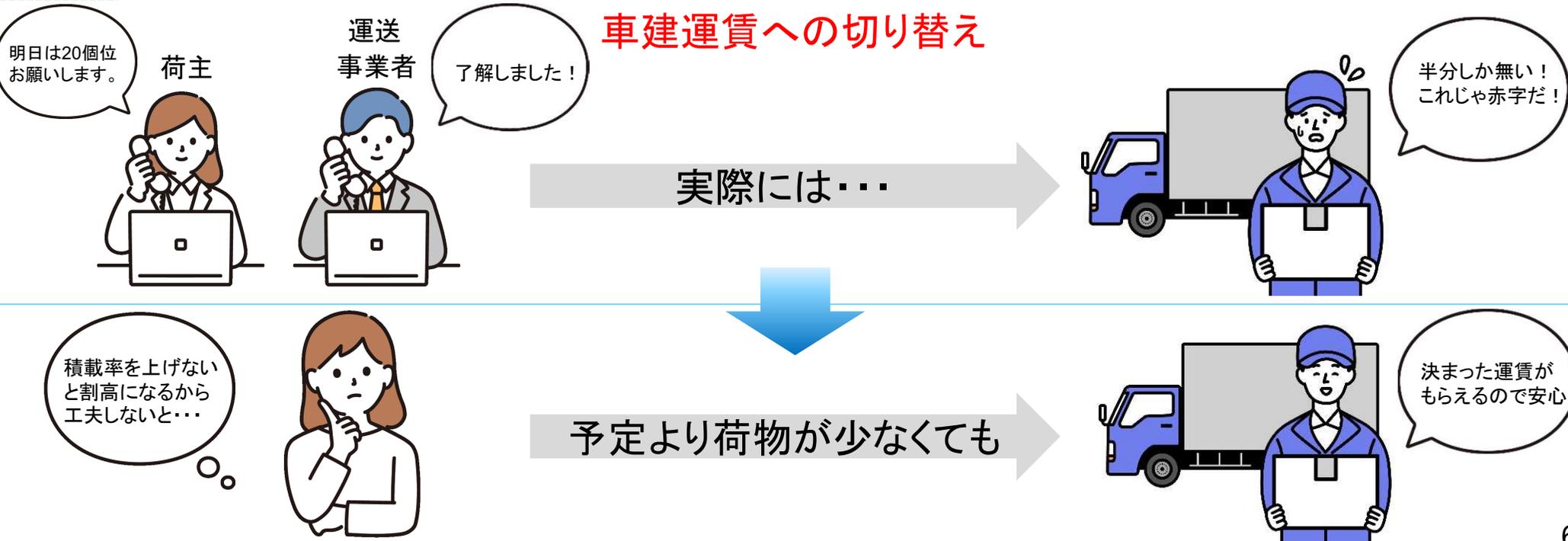
- ①パレットが全国的に不足している状況であり、パレット不足解消の一助となる。
- ②木製雑パレット受入不可事業者への納品が可能となる。(パレット輸送販売の拡大)
- ③破損・荷崩れのリスク低減

一方、パレット輸送導入に係るコスト負担は木製雑パレットより大きいという課題が生じている。

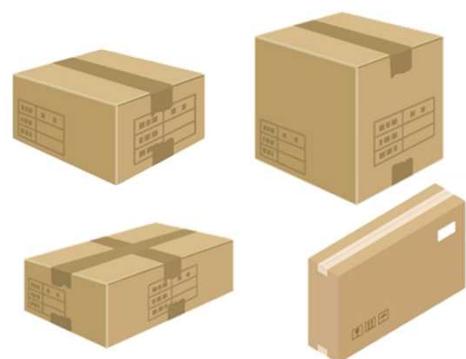
集配拠点の集約化



車建運賃への切り替え



レンタルパレットへの移行



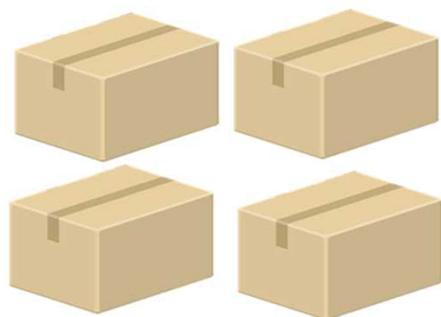
規格がバラバラで
効率が悪い...



出したパレットが
帰ってこない...



古いものは壊れや
すくて危ない...



統一規格で
作業効率アップ!



パレット不足解消!



耐久性もバッチリ!

